

ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<https://lora-saga.jp/> <https://lora-saga.jp/ialt/>

No. 103

〒840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学理工学部内 TEL/FAX : 0952-28-8712 令和4(2022)年3月9日



低平地研究会

佐賀大学理工学部と協定締結

佐賀大学理工学部との間で、『低平地』に関する研究を深め、地域の産業・社会基盤、市民生活の持続的な発展に寄与することを目的とした協定を締結しました。この協定の締結式が2021年12月17日に理工学部学部長室で開催され、西村平本会会長と豊田一彦理工学部長が協定書に調印を行いました。



両者はこれまでも『低平地』に関する研究を行い、研究雑誌『低平地研究』の刊行、各種の講演会や研究会等も相互に協力して実施してきました。この協定の締結により発展的に相互連携を深め、佐賀や有明海沿岸部の地域貢献を進め、さらには国内外を含む国際的な低平地研究の推進が期待されます。

具体的には、次のような連携や協力、地域貢献等を推進することとしています。

- 『低平地』に係る研究推進に関する事項
- 研究成果の公表に関する事項
- 地域の持続的な発展に通じる啓発・普及活動（講演会や研究会等）に関する事項
- 技術者教育に関する事項
- 情報共有及び相互発信等に関する事項

都市空間専門部会共催

野老朝雄氏作品のオープニングセレモニーと理工学部4号館見学会

美術家・野老朝雄氏が手がけた「ARITA HUNDRED STEPS MANJI 2021 (有田焼琉璃百段階階 卍 (陰) (陽) 2021)」のオープニングセレモニー及び見学会が、2021年12月11日佐賀大学理工学部4号館1階のデザインギャラリーにて行われました。コロナ禍による延期を経て、今回は十分な感染対策が成り、主要関係者と事前登録の参加者とともに盛大に執り行われました。



有田焼の新たな美術作品であることに加え、建築空間への適用可能性、100段階の瑠璃色陶板の制作技術、大学生等が設置過程への参加等々、様々な試行、今後への可能性が感じさせる一連のプロジェクトといえるでしょうか。百聞は一見にしかず、ご覧頂きたい方は低平地研究会事務局や関係教員にご一報ください。

有田焼の新たな美術作品であることに加え、建築空間への適用可能性、100段階の瑠璃色陶板の制作技術、大学生等が設置過程への参加等々、様々な試行、今後への可能性が感じさせる一連のプロジェクトといえるでしょうか。百聞は一見にしかず、ご覧頂きたい方は低平地研究会事務局や関係教員にご一報ください。



オープニングセレモニーの様子 (野老朝雄氏: 左から3番目)

都市空間専門部会 公開研究会の開催

「津波被災地域にみる低平地集落の移転・再生の実情と課題」

1月11日佐賀大学理工学部にて「津波被災地域にみる低平地集落の移転・再生の実情



と課題」と題した公開研究会を行いました。まず、東日本大震災後の宮城県沿岸低平地等の集落の移転・再生の実情に詳しい鈴木孝男（新潟食料農業大学教授）、菊池義浩（仙台高等専門学校准教授）からご講演をいただきました。その後、コーディネーターの後藤隆太郎（佐賀大学理工学部准教授）が加わり、現地の実情や集落の防災・再生計画等の討議や補足説明がありました。また、佐賀県内自治体職員を含む参加者（計11名）により、防災集団移転事業等のあり方について熱心な意見交換が行われるなど、有益な研究会となりました。

（後藤隆太郎：佐賀大学理工学部）

地域創生専門部会 講演会の開催

令和4年1月22日（土）14時～16時の日程で、久留米市水間の里記念の森、「ゆうゆう三潴総合福祉センター」において、「三潴と三潴氏の歴史について」と題した大矢野栄次氏（久留米大学名誉教授）による講演会を開催しました。

明治初期の三潴県の設置から、佐賀の乱の結果として、佐賀県一帯が三潴県になったいきさつや明治政府が「三潴」という地名に歴史的な価値を見出していたことが説明されました。

徐福文化や邪馬台国文化を背景とした有明海文化圏の担い手としての三潴氏の歴史について、「景行天皇の時代の猿大海」の時代から、やがて有明海から南に広がる海部一族として豊後の海部郡から徳島の海部・和歌山の海部・名古屋の海部と広がる海の民の一族として『日本書紀』に登場する一族であること、そして、宮津の元伊勢神社の宮司家が海部氏であるように、日本海の支配者として『日本書紀』に登場する重要な一族であることが説明されました。

筑後国三潴荘出身の三潴氏は、鎌倉時代に和田義盛が三潴荘の地頭職に補任されたときにその配下となりました。和田義盛が鎌倉に帰り、和田義盛の弟和田宗実が建久3年（1191）10月21日、越後の国奥山荘の地頭職に補任された時に、現在の新潟県の奥山荘関郡に移ったことが説明されました。

（矢野生子：長崎県立大学経営学部）

環境専門部会講演会開催のお知らせ

日時：3月17日（木）13:30～15:00

場所：佐賀大学理工学部6号館1階都市大講義室
（オンライン開催へ変更する場合があります。）

内容：水害における産業廃棄物発生状況と発生量の推定

講師：島岡隆行氏（九州大学工学部教授）

詳細は低平地研究会ウェブページをご覧ください。

歴史・文化専門部会 刊行物のお知らせ

歴史文化専門部会では、文化元年（1804）、ロシア使節レザノフが長崎に来航する前後の対応について佐賀藩がまとめた記録「魯西亜船渡来録一」（公益財団法人鍋島報



「魯西亜船渡来録一」より、三潴三潴氏より贈呈

効会所蔵、佐賀県立図書館寄託鍋島家文庫 252-18）を翻刻した史料集を刊行する予定です。本史料は、文化元年7月にロシア船長崎来航（実際に来航したのは7月）の情報を入手した佐賀藩が、どのような体制で来航に備えるべきか長崎奉行や福岡藩と協議した内容が主に収録されています。寛政4年（1792）、ラクスマンが通商を求めて根室に来航し、幕府は長崎入港の許可証である信牌を渡しました。その直後から長崎ではロシア船来航への準備が検討され、本史料では寛政6年に長崎奉行平賀伊賀守より佐賀・福岡両藩へ指示が出されたとされています。しかしその後十年以上ロシア船は訪れなかったため、このとき改めて対応が協議されました。本史料の分析により、ロシア船の来航に対する幕府や佐賀藩の危機意識や対応を知ることができます。

（伊藤昭弘：佐賀大学地域学歴史文化研究センター長）

特別会員 『会員動向』掲載記事募集

特別会員様の企業の取り組みや社会貢献活動など、会員のみなさまへのPRとして是非ご活用ください。記事は200文字程度と写真1枚のボリュームです。詳細は事務局へおたずねください。

活動案内

以下の活動を予定しています。詳細が決まりましたらメール・ウェブサイトにてお知らせいたします。

○基盤整備専門部会

3月下旬に講演会を開催予定

○運営委員会・活動報告会

5月末頃に開催予定

編集後記

オンライン方式の仕事にも慣れてきて、今後も色々活用したいことが出てきた今日この頃です。

編集：三島悠一郎、後藤、武富（lora@lora-saga.jp）